

キッズサポート部 会員からのメッセージ

キッズサポート部のメンバーが入会したきっかけや、読み聞かせ活動への熱い思いを語ります。
きっかけも思いも様々ですが、子どもたちにおはなしの楽しさを伝えたい気持ちは全員共通です。
ご興味ある方、見学もできますので、お気軽にお問い合わせください。
キッズサポート部一同お待ちしております！！

「私と読み聞かせ」

50年くらい前、大阪寝屋川市の子ども文庫で「読み聞かせ」という活動に出会いました。その後草加に住みマンションの集会室で子ども文庫を開き、新図書館が駅の西口にできてからL.V.S.に所属し読み聞かせを続けてきました。絵本の世界を子どもと共有できる喜びが長くやってこられた一番の理由です。

又50年前からずっと読み続けられているという絵本の命の長さも魅力です。「ぐりとぐら」(中川李枝子作/福音館書店)、「おおきなかぶ」(A.トルストイ再話/福音館書店)、「ちいさいうち」(バージニア・リー・バートン文・絵/岩波書店)あげていけばきりがありません。これらは子どもの世代に読まれ、孫世代に読まれ、長い時間を絵本がつなぎ、子育ての思い出を共有できます。本の持つ力は凄いです。

長くやってきて子どもの育つ環境の変化を感じます。以前は読み聞かせに集まる子どもは3歳以上でしたが、今は1歳未満もいます。ベビーカーが大集合する時もあります。私は、この乳児の間はお母さんの膝の上でお母さんに読んでもらうのが一番良いと思うので私はちょっと苦手です。それでも、お母さんに読んであげる気持ちで読んでいます。忙しい日常のなかちょっと一休み、赤ちゃんと一緒に絵本の世界を楽しんでほしいと思います

T・SAITO

「絵本を読む3つの楽しみ」

キッズサポート部に加わって早いもので8年になります。最近やっと余裕を持って読めるようになった気がします。私が絵本を読むにあたって感じている3つの楽しみを紹介します。

その1、声を出す楽しみ。入部当初、キッズ部内で行われていた朗読勉強会で腹式呼吸を使う発声法を教わりました。それがとても心地よく、体の中から声を出すことは健康にも役立っているように思います。

その2、本を探す楽しみ。たくさんの絵本の中から、ストーリーや絵のタッチなどを見ながら、自分のお気に入りを探すのはワクワクします。

その3、子どもたちと接する楽しみ。子どもたちとの会話、子どもたちの笑い声から、いつもエネルギーをもらっています。3つのうち、やっぱりこれが一番かな。

キッズサポート部の目的は「読み聞かせを通して子どもたちに本の楽しさを伝える」ことですが、私の場合はまだまだ「自分が楽しいから読んでいる」というレベルです。それでも、知らず知らずのうちに、この楽しみが子どもたちに伝わればこんなにうれしいことはありません。

とんちゃん

私は草加市で育った。子どもの頃はまだ田んぼや畑の広がる町だった…小学校高学年になると自転車で文化センター横の図書館によく通った。ちょっと薄暗いけど窓から光の入る図書館。20年近く経って戻ってきた街には大きく立派な市立図書館ができていた。図書館や書店、古書店街は私の心をワクワクさせるし、癒しの場所でもある。

子どもと関わる活動をしている私は、読み聞かせを通して子どもたちに絵本や本の魅力をもっと知ってほしいと願っている。マッチングアプリではないけれど、数ある本の中から自分の心をつかむ一冊に出会えたときの喜びは言葉では表せない。わぁ～素敵な本と出会っちゃった！となる。手元において、また読んで。その世界に没頭させてくれる。絵本はとくにそう。絵がステキだったり物語がキュンとさせてくれたり心や頭の中の雑音をスッと消してくれる。私にとって本はそんな大切な存在。L.V.S.に入ってからさらに奥深く絵本や絵本作家さんを知る方法を教えていただく機会が増え、本とのラブストーリーが続いている。L.V.S.には7つの魅力的な部があるので色々な部の方と本について語り合えたら嬉しい。地元こんなに(図書館)楽しい場所があるなんて…今この草加市で育っている子どもたちにも、そう思ってもらえるように何かできたらいいなと日々思っています。

MINI

本年4月「図書館ボランティア」の活動が25周年を迎えました。長い歴史を支えてきた多くの会員の皆様方及び、草加市立中央図書館館長並びに職員の皆様方に対し心からの感謝を申し上げますと共に、合わせてこの歴史を重く受け止め、今後も益々の発展のために誠心誠意努力する所存であります。何分よろしくお願い申し上げます。

さて、今多くの子どもたちに対し、大変危惧を抱いておることがあります。それは「テレビゲーム」で死者がリセットされ簡単に生き返る環境の中にいることです。絵本(児童書)に流れるテーマの一つに「死と再生」の物語がありますが、その傑作に私は『100万回生きたねこ』(佐野洋子、講談社)をあげたいと思います。100万回生きたねこは、自分が世界中で一番エライと思っていましたから、その自己愛の繰り返しが人生だと思っていました。そのねこが自分よりも愛しいねこに出会うのです。人を愛するということを知ることによって、100万回生まれ変わり続けた「輪廻転生」の迷いの世界を断ち切ることができたのです。「ねこはもう、けっして 生きられませんでした」という結びは、愛という悟りを得て、永遠なる仏さまとして誕生したのだと理解できます。

この絵本は、昭和52年に第1刷が発刊され、今年で126刷を数えます。人は人を愛するために生まれてきたのだというメッセージが、半世紀近くその美しい絵とともに支持されてきました。死は滅びても生の否定でもなく、死がある生だからかけがえがなく愛しいのだということが再生の物語となりました。

今こそ「死と再生」が持つ豊かな人間性と人生への問いかけを、絵本好きな子どもたち、新しい世代に伝えていかねばと考えている今日此の頃です。

澤崎 義紀





ちいさいうちに住むがまくんのつぶやき

ちいさいうちに住むがまくんは、薮内正幸美術館（山梨県北杜市）へ行ってきました。車の運転ができないがまくんは、駅から美術館近くまでタクシーに連れていってもらいました。タクシーを降り、車道から案内板に従って美しい並木道を進みます。趣きのある木造の美術館が見えてくるとますます期待が高まります。館内はまさに薮内ワールド！恐竜の画の企画展が行われていました。迫力満点の恐竜の画を鑑賞し、独学で多くの素晴らしい作品を生み出した薮内さんの並外れた才能に驚きつつ感動しました。いつまでもここにいたいくらい素敵な美術館でした。

さて、毎年夏休み中の児童室は多くの子どもたちが思い思いに過ごします。むさぼるように本を読む子、宿題の読書感想文や自由研究のための本を借りに来る子。普段あまり図書館を利用しない子も来てくれたでしょう。

たくさん本の中から選ぶ時は幸せです。今まで何度も本を借りているのにやっぱり毎回至福の時間なのです。図書館はそんな楽しい場所。皆さんにとってどんな場所でしょうか。本を選ぶ幸せなひとときをこどもたちにもたくさんたくさん味わってほしいです。大人になっても。

そのために私たちができることは、真の面白さを持つ本を手渡すこと。本を選ぶ確かな目を持てるよう学んでいきたいです。

イラスト：わんぱぐ

入会・見学のお問い合わせは

こちらから →

QRを読み込めない方は直接ご連絡ください
momofmimic-sakura@yahoo.co.jp

